

坂井市三国町・二の浜（転石海岸）の磯ガニ調査について

夏 梅 晃 一

1 調査のきっかけ

磯ガニは、磯遊びに興ずる子供たちの目を最も引く小動物ですが、福井県の海岸に生息している磯ガニの種類や生態は、どれだけ知られているのでしょうか？全県的に調査されたことがないように思われます。

三国町崎地係の二の浜は、「黒色の火山角礫岩」と「薄赤色の溶結凝灰岩」の2種類の岩石からなる、大小様々な大きさのレキが堆積している転石海岸（レキ浜）です。このレキ浜の波打ち際には、レキとレキの間にできる空間を利用して、非常に多くの磯ガニが生息しています。

また、二の浜の磯ガニたちは、異種が混然と入り混じって生息しているのではなく、種類毎にある程度住み分けて生息しているように感じていました。

そこで、平成17年5月3日に自然保護センター主催でこの地で開催された自然観察会を機に、参加者の皆さんの協力を得て、レキとレキ間に生息している磯ガニの生息状況を調査しました。その後、季節毎（H17.7.24,H18.9.24,H18.12.24,H20.4.27,H20.10.5）に調査したので、その結果の概要を紹介します。



2 調査結果の概要

① 二の浜のレキ間に生息する磯ガニの種類

今回の調査で確認された種類は、5月と7月はアカイソガニ、イワガニ、ヒメアカイソガニ、イソガニの4種類、9月の調査では更にヒライソガニを確認。レキとレキの間に生息していた磯ガニは、5種類でした。

また、12月末の調査では、冬季においても4種類の磯ガニが生息していることを確認しました。しかし、春～秋にかけて生息域が広くかつ生息密度が高かったイワガニがほとんど確認できず、代わりに秋と冬の調査で

はイソガニの多さが目立ちました。

この結果は、中部日本に生息する磯ガニの代表種が、イワガニとイソガニであることを否定する結果でした。少なくとも、二の浜のレキ間に生息する磯ガニの代表種は、「春～夏にかけては、イワガニとアカイソガニそしてヒメアカイソガニ」であることを改めて確認し、「秋～冬にかけては、アカイソガニとイソガニ」であることがわかりました。

写真入りのフィールド図鑑に載っていることが少ないアカイソガニとヒメアカイソガニの代表的な生息地の1つが、本県の三国海岸であることは、北隆館の新日本動物図鑑や保育社の原色日本大型甲殻類図鑑に記載されています。

なお、この図鑑には、日本各地に最も普通に見られるイワガニが、明治23年（1890）以前は日本産の記録がなかったと解説されています。



② 二の浜に生息する磯ガニの抱卵時期

5月の調査では、参加者の皆さんのお陰で、アカイソガニとヒメアカイソガニの抱卵が確認できました。また、7月にはイワガニの抱卵を確認。更に9月には、アカイソガニの抱卵を再度確認し、二の浜でのアカイソガニの抱卵時期が、春と秋の2回であることがわかりました。

その後、今年の10月上旬にヒライソガニの抱卵を確認しましたが、イソガニの抱卵は未だ確認できていません。

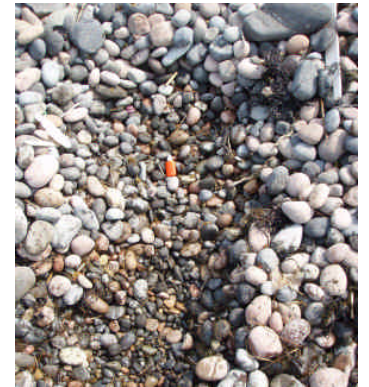


9月の二の浜

③ 二の浜に生息する磯ガニの住み分け

今回の調査の主目的は、「数種類の磯ガニたちの二の浜での住み分け」を明らかにすることでした。調査の結果、「異種が、年間を通して入り混じることなく、二の浜で整然と住み分けしている」といった単純明快な結果は得られませんでした。以下のことがわかりました。

- ・ 中程度の大きさのレキが堆積している所では（写真参照）、年間を通してアカイソガニが多く生息している箇所がある。
 - ・ ヒメアカイソガニは、大～中程度の大きさのレキが堆積している下の、小さなレキに混じって生息していることが多い。
 - ・ 砂のように細かいレキの中には磯ガニが生息していない。
 - ・ 季節毎に、主に1種類だけが生息している箇所と、複数種が確認される箇所がある。
- しかし、1年中複数種が完全に入り混じって生息することは少ない。



アカイソガニの生息密度が高い中程度の大きさのレキの堆積状況。写真下側の波打ち際は、レキが細かくヒメアカイソガニが多い

H20.4.27

3 自然学習歩道の目的と今後の展望

5月の調査で、大勢が参加する観察会は、生き物たちの生息状況を調査するのに、非常に有意義な機会であることを改めて感じました。

三国町の米ヶ脇（荒磯遊歩道入口）～崎（越前松島）までの海岸遊歩道は、「自然学習歩道」として、遊歩道沿いに自然解説板や自然観察施設が、利用拠点として海浜自然公園内に「みくに自然学習センター」が整備されています。

この自然学習歩道のテーマは、「三国海岸の複雑な海食地形は、様々な生き物に生息の場を与えていること。この自然環境を、地元の方々は、生活や漁業に利用しながらも、良好に維持していること。このことが私たちの生活にうるおいを与えてくれていること。これらのことを体験学習する場とする。」

ということです。今回の磯ガニ調査は、このテーマ前段の、「複雑な海食地形の1つであるレキ浜を、磯ガニたちがどのように生息に利用しているか。」を学習するための1つと考えています。

この調査をきっかけに、二の浜の磯ガニについて、磯浜の微地形（レキの堆積空間）や潮汐現象や沿岸流等と生息状況との関係がより深く解明されるとともに、この調査が、県内各地の海岸における磯ガニや海岸生物の生息状況をより深く知るきっかけになれば幸いです。

